新・新潟市教育ビジョン策定推進本部　第６回本部会議　会議概要

【開催概要】

日　時　令和７年１月 29 日（水）午後１時 30 分から午後３時 00 分

会　場　ふるまち庁舎４階　401 会議室（教育会議室１）

出席者　本部長・副本部長・本部員　ほか

【会議概要】

■１　開会

本部長あいさつ（夏目教育長）

○　新しいビジョンについては、令和５年度から今年度にかけて大まかな基本構想から詳細の実施計画に至るまで、有識者会議やこの本部会議などで様々な意見や助言をいただき、貴重なご指摘と受け止め、事務局で磨き上げをはかってきた。

○　本日は最終回の策定推進本部会議と予定をしており、実施計画案の協議になる。新ビジョンに掲げている２つの概念、更には新潟市の教育が目指す人間像に向けて実施計画案の具体的な事業展開になれるかどうかというところを確認いただき、協議をお願いしたい。

○　この計画の名称について、今までは、「新・新潟市教育ビジョン」という仮称で進めてきたが、今後、中長期的に浸透させていくことや、様々な場面で引用されること、多くの市民の皆さんに新しい計画という印象をもっていただけるように、ということを考え、新しい計画名称について、本日選定していきたいと思う。

○　これまでご多忙の中、出席をいただいた皆様の力をお借りして今日ここまでの案に至っていることをあらためて御礼を申し上げて開会のあいさつとさせていただく。

■２　説明・協議

○　新・新潟市教育ビジョンの名称について

（教育総務課長）

先ほど教育長からも話があったように、この計画の名称の案を我々事務局で考えたところだ。今日配布した資料１、実施計画の表紙にもあるように、本タイトルの部分については、「新潟市教育振興基本計画」。これは国の計画や県の計画、政令指定都市とも、いわゆる正式名称を使っているものもあり、我々はまずこれが第一として考えられるのではないか、と思っている。ただ、一方では市民の方に向けては、この「教育振興基本計画」は、なかなか堅苦しいイメージがある。我々がこれから目指す教育のあり方として、いわゆる家庭教育、学校教育、社会教

育といったように生涯を通した本市の教育の方向性を示し、分かっていただく必要があるのではないか、というところで名称を考えた。先般、この名称に関しては、本部員の皆さまに、どんなものが良いかとアンケートをさせていただいたところである。その時は、「にいがた教育コンパス」という表現を使っていたのだが、「教育」というと、「教え育む」ということで、「教える者と教わる者」という印象をもちがちなのかなと思ったところである。一方、今回修正させていただいた、「学び」については、様々な教育の分野ということで、家庭教育、学校教育、社会教育と幅広い印象をもつ事が出来るのではないかということで、先日アンケートでお聞きした時とは表現が変わっているというところだ。我々としては、コンセプトである「市民が生まれてから一生涯の「学び」をより良いものとする方向性」を示していくものという考えから、名称を「にいがた学びのコンパス」として提案させていただきたい。新・新潟市教育ビジョンの名称についての提案は以上だ。

（教育委員会事務局）
今の説明内容について確認や質問はいかがか。それでは教育長より最終の判断をいただきたいと思うが、いかがか。

（夏目教育長）
人間像に使われている言葉を使うとか、また、全く関係なく目をひくような言葉を使うとか、計画の中のどこにも書いていない言葉を使うとか、いろいろな案はあったのだが、ある程度絞り込まれて、新潟市とか新潟県とかと間違われないようにと、片意地を張ることもないので、愛称ということで、ひらがなとした。皆さんの表情を拝見していると何となくこれでいいのでは、という感じがする。

（複数人）
―拍手―

（夏目教育長）
それでは、「にいがた学びのコンパス」に決めたいと思う。

（教育委員会事務局）
名称については今後、「新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～」とする。なお、印刷の都合上、お手元の基本構想・基本計画の概要版の名称の方は、今後、修正させていただ

く。

○　実施計画（案）について

（教育総務課長）

実施計画について説明する。はじめに全体的な説明をする。資料１の１ページでは、計画の概要ということで、実施計画の意味合い、構成、対象範囲を記載している。実施計画については、基本構想、基本計画で示した「新潟市の教育が目指す人間像」の実現に向けた基本的な方向性である基本計画を具現化する事業の計画である。事業の数は 67 となっており、現行ビジョンの数が 84 となっているので、現行ビジョンよりも少ない形となっている。当然ながら１つの事業が複数の基本施策に位置づけられている重複事業もある。そういったところも理解いただければと思っている。続いて、２ページ目と３ページ目はこれまで皆様から議論いただいた基本構想、基本計画の概要として記載をさせていただいている。２ページ目には新潟市の教育が目指す人間像と基本計画のイメージ図。３ページ目には、その人間像を達成するための基本方針、基本施策が載っている。次に４ページから７ページ。ここは３ページの基本施策のゴールの姿になる。目指すべき姿としての施策指標と取組指標というものを表現させていただいている。８ページから 11 ページまでは、その指標、姿を実現するために、どのような手立てを講じていくか、という具体の主な事業を記載している。新潟市の教育が目指す人間像があって、その人間像に到達するための基本的な方針、施策、その実現をはかる部分として、基本施策の指標の資料がある。その指標を高めるために、どういった事業が必要になってくるか、といったところで、主な事業を載せている、という考えだ。それを表現しているのが 13 ページ以降になる。例えば 13 ページと 14 ページ、基本方針Ｉの基本施策１の部分だが、最初の 13 ページの上段のところには、基本方針が載っている。その下の●にあるように基本施策の概要と主な目的、その指標として施策の指標があり、その施策指標をより具体化した指標ということで取組指標がある。これらの指標は、例えばその上にある基本施策等々に取り組む上で大事な事業として 14 ページに掲げてある主な事業という形で掲げている。別の資料でＡ３の【参考資料１】というのがある。これは現行ビジョンから主だったところを抜粋したものになる。ご覧いただいて分かるように、現行のビジョンは例えば、コミュニティ・スクール１つの事業に対して１つの指標というような見せ方になっている。パートナーシップ事業であれば、それに関する指標ということになっている。この形が悪いわけではないが、長い年数を経過してくると、どうしてもこの指標と事業だけの点検になってしまいがちというところがある。我々としては最終ゴールとして考えているのは、新潟市の教育が目指す人間像に向けてどのような取組をやってきたかという施策的なレベルというところであり、それをしっかりと評価する。そして最

後に具体的な事業として様々な事業がある、ということ。事業がメインではなく、ゴールに向かって、どこが足りなくて、どこに力をいれなくてはいけないか、ということがしっかり分かるように、指標を活用しながら、点検と評価をしていくという考えの中で、このような形にさせてもらった。この形というのは、政策調整課の方でまとめていただいた総合計画のスタイルを参考にさせていただいている。今後、新しい計画の点検と評価をするにあたっては、事業目線での点検を意識するのではなくて、全体を通した中での各基本方針ごと、各基本施策ごとの視点にたって点検をしていくことが肝心だと思っている。冊子の 14 ページに戻っていただき、主な事業ということで４つ記載をしている。この順番については基本的には 13 ページにある●の主な内容ごとに並べている。ただ、中には、直接的に市民にかかるものは出来るだけ上位にもってきていたり、例えば、教員向け、職員向けに「何とか研修を実施します」みたいなものについては、順番としては下の方にもってきたりしているので、そういった見方もあるということを、頭の片隅にいれていただければと思っている。先ほども申し上げたが、今後、進捗管理については施策指標と取組指標を総合的に見ながら、振り返りを行い、いわゆるＰＤＣＡサイクルを回していきたいと考えている。取り急ぎ、全体の話としての説明は以上になる。

（教育委員会事務局）
これまでの説明について確認したいことや質問はあるか。

（生涯学習センター・中央公民館）
細かいところで申し訳ない。それぞれの事業の担当所属の記載があるのだけれども、こちらは後で調整させていただきたいのだが、生涯学習センターと公民館が全て併記となっているが、それぞれの所属で受け持っている事業が異なるので、こちらの方は後ほど全て調整させていただきたい。

（教育委員会事務局）
後ほど調整ということで承る。他いかがか。

（特別教育支援課）
施策指標と取組指標の関係性について教えていただきたい。先ほどの説明で、取組指標は、より具体化した指標という説明があった。８月の指標の考え方についての資料を見ると取組指標は施策指標を補完するものとある。もっと具体化するということはゴールと考えてよいか。

（教育総務課長）
取組指標についてもゴールと考えてよいかと思う。あくまで、基本方針、基本施策があり、その取組を評価する上での施策指標がある。施策指標については、少し高めの意味合いだったり、漠然とした意味合いをもつものがあると思う。ただ、それだけでは、不足する部分が見えにくくなってくると思う。そういったところを補完する上での、より具体的な指標を取組指標として設定している。４ページから７ページに、施策指標と取組指標が一覧となっている。皆さまにお願いがある。今話したように、施策指標に対する取組指標というものが補完的な形になっているのか、施策指標のより具体的なものとして取組指標が位置づけられているかどうか、それぞれ所管するところの部分を、関連性がしっかりと成り立っているかどうか、を各課で確認をしていただきたい。

（教育委員会事務局）
基本施策と取組指標の補完的な関係について、確認をお願いしたい。

（こども政策課）
15 ページの基本施策Ｉ―２、確かな学力の育成の施策指標の真ん中の「学習や生活において、～」という指標について、２行目から３行目のところで、「自分で判断して行動したと回答した」というところはよいのだが、冒頭、「学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、～」というところが、「学習」という指標と「生活」という指標が２つあるという指摘が当課の教員ＯＢからあった。目標の達成をどちらにするのか、というところで、少し疑問に感じるということであった。ただ、これは、もう既にこういう形で設問が決まっているということであれば、変更できないかもしれない。ここは２つの指標を分けて整理することが可能なのかどうなのか、ということを確認させていただきたいということで、質問を預かってきたので、報告させていただく。

（教育総務課長）
指標の中には、今、話があったように、既に子ども達へのアンケート等で調査しているものについては、なかなか変えにくいものもある。一方で、新潟市が独自でやっているものについては、皆さまからの意見を踏まえて、変更等は可能かとは思う。今、指摘のあった指標については「新潟市生活・学習意識調査」に基づいての指標であり、なかなかそれを変更するのは難しいと思っている。ただ、今のような意見や、他のところでも似たような意見もあると思うので、しっかりと場面によって、学校、生活というところでも、どのように数字を捉まえるか、とい

ったところは見て、考えながら評価していこうと思っている。

（政策調整課）
施策指標と取組指標、主な事業とあって、重点事業に星印がついているとあるが、重点事業とそれ以外の事業の違いというのが明記されていた方が、後で見た時に皆さんが分かるのではないかと思う。

（教育総務課長）
この星印がついているところが重点事業となっている。まず、我々が考える重点事業とは何かというと、総合計画の中での重点戦略となっているもの。これは教育に限らずいろいろな分野で重点戦略というものがうたわれている。そこに関係するところは基本的に星印をつけている。重点事業ということで位置づけていこうと思っているところである。ただ、総合計画を策定してから２年ほどたって状況が変わっていく中で、それに加えて今の教育委員会として、この部分は重要な分野であるというものには星印をつけさせていただいた。その部分というのは、去年、今年、来年と重点的に取り組んでいくところが新たに追加されているところである。

（教育委員会事務局）
今、質問あったことに関しては、実施計画の 12 ページに、今説明したような内容を書かせていただこうと思っている。

（総合教育センター）
41 ページ、42 ページをについて教えていただきたい。施策指標が２つある。そのうちの１つが、「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善に取り組んでいると回答した教職員の割合」となっている。主な事業のところを見ると、ここには、それに関することがないのだが、16 ページの施策Ⅰ―２の重点事業の星印のついている学校支援課の主な事業を見ると、『「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善事業』というのがある。施策指標にはあるが、事業の中にそれに関することがなくても大丈夫なのか。もし必要であれば、ここも重複事業か何かで入れておいたほうがいいのかなと思う。いかがか。

（教育総務課長）
その辺のところを見きれておらず、申し訳ない。確認して検討させていただきたいと思っている。

（スポーツ振興課）
これを書類として見た時に、８ページに事業名が列記してあるところに、右端にページ数が記してあると、特定の事業に関心ある方がパッと開いて、そこ見つけることができるのでよいかと思う。また、開いた時に事業名に星印がついていて、この星印はなんだろうということになるので、インデックスのところに併せて星印をつけると親切かと思う。感想なので、回答は不要だ。

（生涯学習センター・中央公民館）
基本方針Ｉの「生涯を通じて学び、夢や希望に向かって～」という部分について、ここがおそらく生涯学習に関連するものになると思う。生涯学習という概念でいくと、学校教育、社会教育、家庭教育、それからそれ以外を全て含んだ内容になるので、ここが本来、相当広いものになると思う。それに対して記載されている事業がこの４つというところで、これ以上事業を増やすのは難しいと思うが、24 ページの基本施策Ⅱ―６「誰一人取り残さない～」の主な事業にあがっているものに関して言うと、例えば、夜間中学など重複するようなもの、概念に当てはまるようなものがいくつかあると思う。夜間中学以外にも２つから３つくらいは生涯を通じて学ぶ機会を創出するという面では該当すると思うので、重複事業として記載をしていただいた方が概念からいった時のボリュームがあると思う。

（教育総務課長）
まさに基本施策Ｉ―１が、まずもって頭にくるところである。生涯学習について、概念を広く捉まえているか、というところがここで表現できるかということがあるので、今の意見を踏まえながら対応していきたいと思う。

（教育委員会事務局）
他いかがか。ないようであれば、実施計画の続きについて教育総務課長から説明する。

（教育総務課長）
13 ページ以降、各基本方針、基本施策に関する施策指標、または取組指標がそれぞれ書かれている。目標値については赤字で表記している。第一段階的に仮置きのもので、本日ここで決めるものではないが、引き続き精査をしていきたいと思っている。ただ、気づいた点などがあれば、皆様と共有したいと思っている。まず全体的なことについて、施策指標と取組指標があるが、例えば 13 ページの施策指標の２つ目、「難しいことでも、失敗をおそれない～」とあり、

目標値が小６と中３という形で表記が２つ分かれている。令和 14 年までにかけての目標値がそれぞれあり、それぞれ違う数値を設定することが悪いわけではないが、有識者会議の中で意見があったように、小６と中３の５パーセントの差が、中３になると、こうだから５パーセントの差が出るというものが、我々の中でも理解した上で、目標値に差を設けるというのはよいが、もし、それがないというのであれば、目標値を小６と中３で分けるというのは、どうか、というのが意見としてあった。差を設けるのであれば、その差を設ける理由についても確認していく必要があるかと思ったころである。そういった点も意識をしていただいて、数値を決めていきたいと思っている。これも全体に言える話だが、13 ページの取組指標の２つ目、「前年度までに、授業において、児童（生徒）自ら～」という指標について、小６の現状値 89.7、令和７年が 91、令和８年が 91、令和９年が 91、令和 10 年が 92 と、あまり変わらない数値を、あえて数値としてを出す必要があるのかと思っている。総合計画の実施計画においても、こういったものは「前年度以上」とした方がいいのではないかと見て、設定している。ただ、「前年度以上」というものを、どこまで続けるか。令和 10 年まで「前年度以上」としてしまうのか、それとも令和 10 年のところで、ある程度数値を出すのかというところを考えていかなければならない。これは、総合計画で実施計画を作った時に、「前年度以上」というのを使っているが、使っていたり、使っていなかったり、というところの考え方がもしあれば、あとで政策調整課長に確認させていただきたい。

あと、具体的な話をして申し訳ないが、13 ページの取組指標の４つ目「図書館に利用登録している市民の割合」について、例えば、ここについては具体的な目標値をあげていただいたところだが、他と比べると、上昇のパーセントがあまり大きくない。こういったところについても、数値を出すのか、それとも、「前年度以上」と表記をするのか、ということもある。もし、「前年度以上」としたとしても、最終的な 14.5 ということが、いいのかどうかということも、各課の方で確認をしていただきたいと思っている。今、私が例を挙げて話したところだけでなく、全体を通しての話なので、同じような視点で見てもらいたい。

続いて、15 ページ。施策指標が３つあり、その内の下２つ、「学習や生活において～」、「学校で学んだことを～」について、令和 14 年度の目標値が「○○．５」と小数点第１位となっている。８年後の目標値は、小数点以下でない方がいいと私個人的には思っている。目標値を出すにあたって、数値を積み上げた結果、「○○．５」と出るのはおかしくなく、当然のことではあるが、最終的な見せ方的なところで、どういう形がいいかについては、先ほどの「前年度以上」という表記も含めて、事務局も考えた方がいいと思う。

15 ページの取組指標の２つ目、「市教委が情報提供する授業改善のポイント～」とあるが、ここは現状値が「新規」ということで「調査数値なし」となっている。その下の３つ目の指標に

ついても「新規」で、「調査数値なし」となっている。２つ目の指標については、令和７年は「アンケート実施指標設定」とある。これは悪いわけではないが、令和７年度「アンケート実施指標設定」というところが他にない。もし、これしか設定できないのであれば、そこの確認をしっかりとる必要があると思う。たまたま上下で並んでいるので、現状値は同じ「調査数値なし」となっているのに、令和７年度の取扱いが違うという点に疑問が出てしまうと思うので、そこは確認した方がよいと思う。

４つ目の「アグリ・スタディ・プログラム～」の指標について、現状値よりも令和 10 年の数値が下がっている。実は他にもこういった指標がある。こういったところも数値としてどういった形がいいのか、というものを、確認していく必要があると思っている。今のような話を聞いていて、皆さまの中には、総合計画の実施計画の中で同じ指標があり、目標値を出してしまっているので、なかなかそこと変えるわけにはいかないと思っている方がいらっしゃるかと思う。ここは政策調整課と相談していく必要があると思うが、総合計画策定から２年経過し、状況が変わってきている中での今回のビジョンの中の数値というところで、整合をどこまではかるか、というところについては、事務局の方でも考えさせていただければと思う。

次に 19 ページの取組指標の３つ目、「全ての児童生徒への安心安全な給食の提供」という指標のについて、令和７年度の目標値が「全員給食への移行」となっている。これはすごく大きな取組ではあるが、移行後は、「実施」となってしまう。この指標だからというのもあるかもしれないが、何か別な形で「子ども達へ安心安全な給食が提供できている」ということを測ることができないか、もしであれば別な形で検討していただきたいと思っている。

続いて、21 ページをご覧いただきたい。取組指標の１つ目と２つ目について、小学校と中学校でパーセントが出ている。上の施策指標のように、小６〇パーセント、中３〇パーセントと学年を限定しているのであれば、小学校と中学校と分けるのも分からなくないが、小学校が〇パーセント、中学校が〇パーセントということであれば、全体で〇パーセントとあわせたらどうなのかと感じるところがある。要は、全員に聞いているということだとすると、小学校と中学校で分ける必要があるのかな、と。例えば、小学校と中学校でそれぞれの傾向があって、あえて分けているということであれば別なのだが、もし、そこまでのところでなければ、ここを１本にしてしまうということもあるのかと思う。

今話のあった所管課だけではなくて、当課も含めて同じようなことが言えるかもしれないので、各課の皆さんにはこのような視点をもちながら、全体を見通した中で、自分の課の指標をどういうふうにしたら良いかというところをチェックしていただきたい。なお、全てを表記するのは難しいが、今後は、市長部局の主な事業というものも教育委員会の取組とセットで表記をしていきたいと考えている。主な事業の概要まで載せるということではなく、事業名だけに

なるかもしれない。今日参加していただいている各課長においては、後日そういった依頼が行くと思うので、ご承知おきいただきたい。
最後に、この実施計画について、現行のビジョンは冊子を作成しているが、今、見ていただいている実施計画は、冊子ではなくデータ化をして共有したいと思っている。主な事業や先ほどの組織表など、毎年変わってくる部分もあるので、そういった点からも、あまり紙ベースにこせず進めていきたいと考えているので、理解をいただきたいと思う。

（教育委員会事務局）
今の説明に対して確認、質問があればいかがか。

（食と花の推進課）
今ほどの市長部局の事業についてもこちらの方に載せると考えられているということだったが、掲載されている教育委員会の事業の中で、特に 16 ページに記載の「アグリ・スタディ・プログラム」について担当課が学校支援課になっているが、予算としては当課が所管しているという部分がある中で、そういったところも含めて市長部局も記載するというイメージでいいか。

（教育総務課長）
ここにある『「アグリ・スタディ・プログラム」に基づく体験学習の推進事業』というのは、農水部の事業か。

（食と花の推進課）
一応、事業は学校支援課と一緒にやっているが、予算的には農林水産部についている。

（教育総務課長）
こういう事例はあまりないかもしれないが、例えば、ここのところには学校支援課の名前しかないが、ここの並びに食と花の推進課を併記するというやり方もあるかもしれない。他にも、例えばこども未来部や文化スポーツ部の事業などを、この主な事業の内容の欄外に一覧的に記載したりして、事業名だけは羅列していくという方法もあると思っている。

（中央図書館）
今の意見に関連して、35 ページの一番下の「子どもの読書環境整備事業」について、「子ども

読書推進計画」は、こども未来部と一緒にやっているので、できれば担当課に図書館だけではなく、子ども未来部の担当課の名前も入れていただけるといいと思った。これは質問なのだが、34 ページの施策指標と取組指標で同じ「家庭で読み聞かせをしている～」という指標が出てくる。このように同じ指標が、施策指標と取組指標の両方に載っている場合の関係はどのように理解すればよいか。他のところを見ると、施策指標と取組指標で目標値が異なっているところもあるようなので、どういう関係なのか教えていただきたい。

（教育総務課長）
先ほどの食と花の推進課の案件のようなものも図書館でもあるということなので、ここに出ている教育委員会の主な事業の担当課からは、今みたいなものがないかどうか改めて確認していただきたい。場合によっては、市長部局の担当課の名前を併記し、概要のところに市長部局の取組というものを入れるということも考えられるかと思う。そういった箇所があれば、積極的に各課の方からもこうしたら良いのではないかという声掛けをしていただきたいと思う。２つ目は、施策指標は各基本施策の取組を評価する上での指標として、上に基本施策があり、それを評価するためのものとして、上から下にいく。取組指標は、作業上、既存の事業があり、既存の事業を取り組む上で、どういったところを目指しているか、と下から上への部分としての指標である。そして、それはこのように上からきた部分と下からきた部分が一緒になる、ここで同じものが出てきているということは、今の作業の中で、あり得なくもないが、出来ればここの取組指標の工夫、別の視点で施策指標と関連づけるようなものがないか、というようなものがないか、確認をしていただきたいと思う。

（生涯学習センター・中央公民館）
指標の数値の記載方法について、「前年度以上」という数値の書き方は、どこかの会議か、もしくは議会の委員会の場かのどちらかで、「前年度以上」で最後まで目標が設定されているものについては、例えば、新型コロナウィルスの影響などで、全体の数値が下がった時に、最終値がスタート地点よりも下がるということが起こりうるいうこともあり、それを良しとするのか、という指摘があったかと思う。真ん中は「前年度以上」でいいと思うが、最終は目標を入れないと同様の指摘が出ると思う。

（教育総務課長）
数値を「前年度以上」としてしまうことで、どこを目標にしているのか、というのが見えにくくなっている部分もあると思う。今の意見も踏まえ、例えば取組指標の真ん中の令和８年とか

令和９年は「前年度以上」としても、令和 10 年は何か数字を設けるなど、そういったことも考える必要があると思う。ただ、その数値を設けられるかどうかというところもあると思うので、相談をさせていただきながら進めていきたいと思う。

（教育委員会事務局）
続いて、基本構想・基本計画の概要版について教育総務課長より説明する。

○　基本構想・基本計画の概要版について
（教育総務課長）
手元にある概要版をご覧いただきたい。こちらは最終的に業者に依頼し、製本していく。今は、我々の手作りとなっているので、ご了承いただきたい。１ページ目を開くと、基本構想、基本計画の概要や構成、新潟市の教育が目指す人間像、基本方針や基本施策を記載している。それを両側を開くと、真ん中に４つの基本方針と人間像の関係性をイメージ出来るようなイメージ図を載せている。そして、それの両脇に基本方針に紐づく各基本施策やその主な内容を載せている。最初に申し上げたように、これは手作りのものなので、見せ方やイメージ図についても、最終的にこれでいくのかどうか考えていく必要がある。そもそもイメージの持たせ方を、表紙の部分で表現していくのか、そういったところも検討しているところだが、一応、こういう形にしたいと思う。一番最後は、今ほど話した施策指標を載せさせていただいた。スペースの関係上、少し見づらくなっているが、この辺の見せ方も何か工夫できないかと思っている。皆さまからも、こうしたら良いのではないか、ということがあれば、ご意見をいただければと思う。

（教育委員会事務局）
概要版について、意見いただけたらありがたい。いかがか。

（教育総務課長）
今、見て、手作りの資料なので、言い難いところもあると思う。このあと、業者に依頼していく。初稿が出来たら、また、皆さまに共有していきたいと思うので、ここをこうした方がいいのではないか、ということがあれば、意見をいただきたいと思う。同じように、実施計画についても、もう少し見せ方を工夫しながら、より見やすいようにしていきたいと思っているので、あわせて意見をいただければと思っている。

■３　連絡・その他

（教育委員会事務局）

長時間に渡り、協議いただき、感謝申し上げる。本日いただいた意見を踏まえて、再度、画竜点睛を欠かないように策定を進める。事務局から連絡をお願いする。指標に基づいた各種調査、アンケートの内容について、教育委員会事務局内の課長補佐級であるプロジェクトチーム員の方で、今後、検討を進めていく予定だ。開催については、日程が決まり次第お知らせする。

■４　閉会

副本部長あいさつ（丸山教育次長）

（副本部長）

○　皆さんから非常に丁寧に見ていただいて、貴重な意見を多くいただき、感謝申し上げる。

○　前段の部分で教育総務課長が話したとおり、国の「教育基本振興計画」、これは令和５年度から９年度までの計画になっており、この計画を受けて、各自治体が策定している計画の名称のほとんどが、「～県・～市教育基本振興計画」となっている。その中で、新潟市は本日皆さんから承認をいただいたように「にいがた学びのコンパス」という名称がつけられた。

○　市民の方にとって親しみのある計画として、また、市民の方からも親しんでもらえるような計画にしたいと思っている。

○　振り返ると、令和５年 11 月 30 日に第１回目の策定推進本部が開催された。この中で２つの大きなコンセプトが決定した。「生まれてから一生涯を見通すこと」、「誰一人取り残さないということ」というコンセプトだ。それに基づいて新潟市民が「しなやかに世界と未来を創る人」として活躍する姿の実現を目指して、新潟市としてこれからも私たちは取り組んで参りたいと思っている。

以上